



ALPS

ECONOMY

>>> 家庭経済

習うより慣れよ。iDeCoを活用した資産形成入門 >>> 第4回

iDeCoはどう運用すればいい？——運用する上で大切なこと

最終回は投資を通じた資産形成において基本となる考え方についてお話しします。巷では「投資」に関して「誰でも」「簡単」と謳うところもありますが、私自身の30年以上の経験を踏まえれば、山あり谷ありで、とても簡単とは言えません。基本を押さえ、気を付けるべきポイントを予めに知っておくことで怪我をせず、目標とする山の頂に上っていただきたいと思います。

「負けない運用」こそが大きな利益を生む

株式市場というのは、歴史的に見て10年に一度ぐらいは暴落が起きることがあります。このような時には、株式に投資する投資信託の価格は大きく下落し、資産の評価額も一気に目減りします。そんな「安い」時に売ってしまったのは、もちろん利益は出ません。それでも、もつと損が膨らむのではないかという不安や焦りに駆られて、元本割れしているにもかかわらず売却してしまう、という行動に出がちです。

リーマンショックの時は「100年に一度の暴落」など騒がれたこともあって、売却してしまった方が多数いらつしやいました。そして、そのお金は往々にして定期預金に入れられてしまい、株式市場が回復する波にも乗れず、いまだ元本割れ、となっています。

これを避けるには、価格が下がっても売らずに済むぐらいの額の投資信託を持つ、ということが大切です。特に株式に投資する投資信託は、1年間に3割ぐらい値上がりすることもあることも3割ぐらい値下がりすることもあることがあります。資産が積み上がってきたら、価格が下がった時でも不安に駆られて売ることなく、数年持ち続けられるぐらいの額に調整しましょう。そうしておけば、暴落時も保有し続けることができます。

相場の混乱が落ち着いて経済が正常化すると、株価が戻り投資信託の価格も戻っていきます。保有し続け、定額で積み立てを継続していれば、価格が下がっている期間にたくさんさんの投資信託を買うことができます。

確定拠出年金アナリスト
大江 加代

○ [おおえ・かよ] 大手証券会社にて22年間勤務、一貫して「サラリーマンの資産形成」に携わり企業や官公庁での講演多数。確定拠出年金には制度スタート前から関わり、現在もiDeCoや企業型確定拠出年金に関する情報発信を積極的に行っている。株式会社オフィス・リベルタス代表取締役。

す。こういったことによつて暴落前の水準に戻る前に元本を回復し、その後は利益が出るということになります。

つまり、値下がり時にも売らずに済む、「負けない運用」こそが、大きな利益を生み出す秘訣なのです。

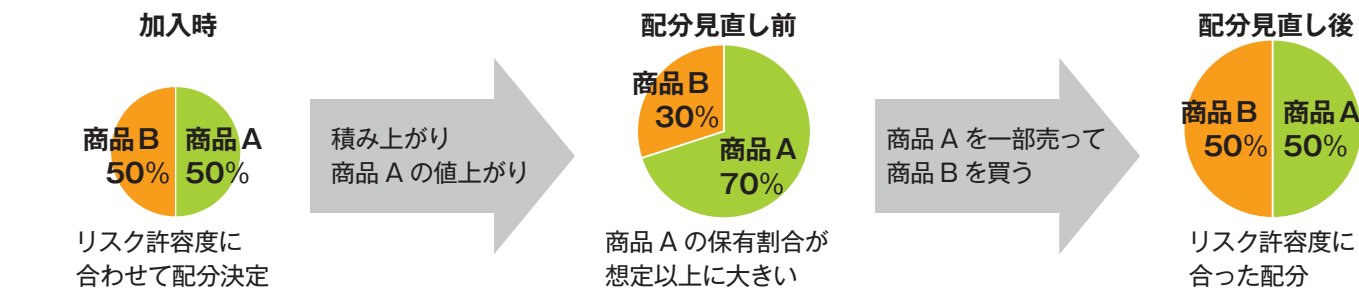
長期・積み立て・分散を実行する

負けない運用を実行する具体的な行動が「長期」「積み立て」「分散」です。

まずは長期的な視点を持つことが大切です。長期というのは「10年以上」と考えてください。景気に波があるように株式市場にも波があり、永遠に下がり続けるということはありません。企業は常に世の中の環境・ニーズに合ったモノやサービスを提供する努力を重ねますが、株価という形で評価されるにはタイミングもあるのです。実際、今年世界的に有名な投資家、ウォーレン・バフェット氏が日本株に投資するということで、これまで割安のまま放置



【図表1】マーケットを意識した資産配分



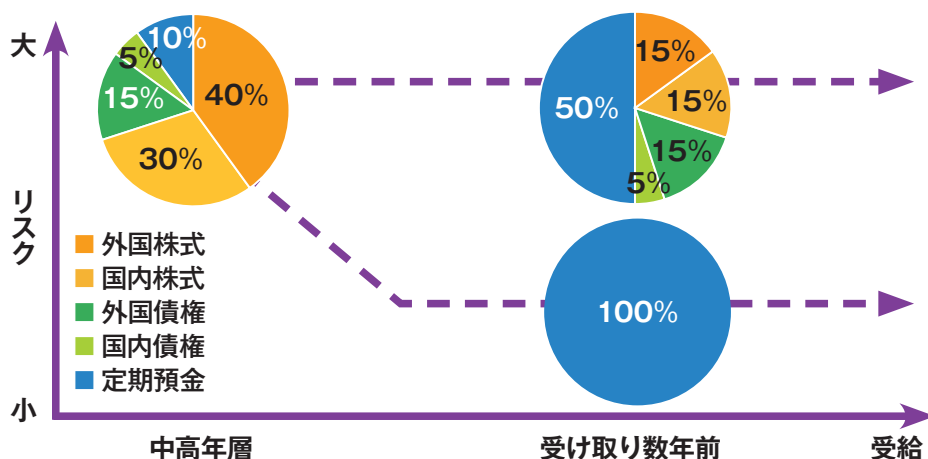
されていた日本株が世界から注目を浴びて急騰し、日経平均株価はバブル崩壊前の3万円台にまで回復しました。こういった急騰のタイミングにそのマーケットに投資していると、利益を生むことになります。

iDeCoは積み立て終了後も残高の非課税運用は継続できますから、50代後半、60代の方がこれからスタートしても長期運用は可能です。とは言え、できればもう少し若いうちからスタートし、じっくり増やすことで得られる実りを享受いただきたいものです。

積み立ては、投資のタイミングが分散できる上に、高い時には少なく買い、安い時には多く買うという合理的な買い付けをストレスなくできるのもとてもよい方法です。投資を通じた資産形成には欠かせません。

資産の分散は、値動きの異なる資産を組み合わせるることによって、価格変動の波を打ち消し合い、価格のブレを抑えることができます。第3回で説明したように株式と債券では価格変動の要因が異なりますから、異なる値動きをする可能性が高いですし、価格変動の大きな株式と値動きのない預金という

【図表2】受取時期を意識した資産配分例



運用中に、定期的に資産配分の見直しを

配分の見直し・売却の
タイミング

組み合わせも分散を図る上では効果的です。「負けない運用」ができるよう、株式の高いリターンにだけ目を奪われず、自分が許容できる価格のブレに抑える「分散」を心がけてください。

行うことは重要です。加入時には自分に合った配分をしていても、値上がりによって資産の配分や保有額は大きく変わってきます【図表1】。そうでなくても、積み立てによって投資に回している資産額は増えていきます。その結果「この額で、もし暴落したら怖いな」という水準に達したならば、利益が出ている資産は売って、安全資産である預金などに移してしましましょう。そうすれば枕を高くして眠れます。配分割合で言えば、当初の配分から2割近くズレてきたら、検討のタイミングだと思っています。

もう一つ、iDeCoの場合、60歳や65歳など受け取りのタイミングが近くなったら、安全資産の割合を増やすことをおススメします。

受け取り時には、保有資産を売却し、現金化して振り込んでもらうことになります。つまり、価格が大きく変動しやすい株式投資信託の場合、売却時のマーケット次第で受取額が変わってしまうということになります。増える分には良いのですが、一時金で受け取って住宅ローンの返済に充てようとするのであれば、減ることは避けねばなりません。

それを避けるには、予め自分で安定的な資産配分に変更しておくことが有効です。具体的には、受け取り予定時期の数年前になつたら、利益が出ている資産を全部または一部売却して預金を購入する配分変更を行います【図表2】。

売却する際も、売却額は少しずつ増やしながら行うことをおススメします。投資信託は100円といった額でも売却可能です。売却額を少しずつ増やしていくやり方は、売却手順に慣れていく訓練になるだけでなく、明日の方が値上がりして利益が大きくなるかもしれないと躊躇する気持ちに打ち勝つ心の鍛錬にもなります。思い立ったが吉日と思って、利益が出ている状態で売却できたら、自分をほめてあげてください。相場の世界では「頭と尻尾はくれてやれ!」という格言があり、プロでも最高値で売ることがほぼ不可能です。売却後の値上がりを気にしてはいけません。

商品情報の 定期的なチェック

投資信託では、関連する情報を定期的にチェックすることも大切です。

例えば、外国株式に投資する投資信託では、低コストの投資信託が増えており、この数年コストの引き下げ競争が続いています。ですから、契約先の金融機関のラインナップに、同じ商品性をもった投資信託でコストが低い新商品が追加されているかもしれません。

低コスト商品に運用商品を切り替えることは、利益を増大させます。運用商品の切り替えは、自分自身で今後の積み立てで購入したい商品や、すでに保有している残高の運用商品を変更する必要があります。

すでに加入されている方は、契約先の加入者サイトにアクセスして、最新の商品ラインナップを確認し、必要があれば運用商品の変更を行ってください。

既存商品のコストの変更や商品の追加・除外といった重要情報は、メールや書面で必ずお知らせが届けられます。高いコストの商品で数年、数十年と運用することはもったいないので、契約先から届く情報は確認するように心がけると同時に、残高や運用状況を確認する際には商品に関する情報も確認するようにしましょう。

忘れてはいけない 3つの手続き

最後に、iDeCoで忘れてはいけない3つの手続きをご紹介します。

1つ目は、積み立て時の税のメリットを受けるための手続きです。毎年、10月末に自宅に届く「小規模企業共済等掛金控除証明書」を添付して年末調整で掛金額を申告してください。

加入したばかりで引落しの開始がその年の10月以降の場合は、証明書が届くタイミングが11月以降になります。年末調整までに書類が届かなかった場合や年末調整で申告することを忘れてしまった場合には、確定申告で申告してください。この手続きをしておけば、所得税は還付され、住民税は翌年の徴収税額が減る形で税のメリットを受けられます。

2つ目は、転居で住所などが変わった時は、契約先の金融機関に連絡して登録情報の更新を行ってください。情報更新が行われていないと、先ほどの「小規模企業共済等掛金控除証明書」のような重要書類が自宅に届かなくなりますから要注意です。

3つ目は、転職の際の属性情報の更新手続きです。掛金額が新たな働き方でも変わらず、限度額を超えていない場合には手続きしなくともいいと勘違いしてしまいがちですが、そんなことはありません。自営業になる、第3号被保険者になる、勤務先が変わるといったことは掛金上限を証明してくれる主体が変わるわけですから、重要な属性が変わることになります。契約先に連絡をとって、更新手続きを行ってください。

4回にわたりiDeCoを活用した資産運用についてお話しさせていただきました。短期間で大きく儲けようとするような資産運用は、短期間で大きく損する可能性があります。高い方法です。税制メリットのあるiDeCoなどの制度を使って少額の積み立てで行う資産形成は、地味ですが再現性が高く仕事との両立もしやすい方法です。iDeCoを上手に活用し、豊かな将来を築く手助けになることを願っています。

